

高齢者等移動支援事業 乗合タクシー「のりあい善行」の取組み

善行地区 郷土づくり推進会議
神奈川県 藤沢市

背景

藤沢市善行地区は、高低差のある起伏の多い地形が連続し、高齢者等の交通弱者にとって厳しい環境であることから、地域の足の必要性について、かねてから検討が行われており、市民提案による地域提案型のバスなどで交通環境の改善が図られてきましたが、最も厳しい地区（立石・伊勢山辺・亀井野エリア）が手つかずの状態であったため、新たに取組みを進めたものです。

経過

（１）高齢者等移動支援事業のまちづくり事業への位置づけ（平成２１年度～平成２２年度）

市民で構成する「善行地区地域経営会議（平成２３年度以降善行地区郷土づくり推進会議に名称変更）」は平成２１年度に実施したアンケート調査結果を踏まえ、平成２２年度後半に高齢者等移動支援事業を「地域経営会議」の進めるまちづくり事業計画として位置づけ、高齢者等の交通弱者が、坂道を意識せず、地区内を快適に移動できるよう、具体的な検討を行うこととしました。

（２）NPO組織による自主運行の推進と挫折（平成２３年度～平成２４年度）

平成２３年度からは、ワークショップを開催するなどして、道路運送法によらないボランティアドライバーによる無償での自主運行の企画を行い、市の支援を受けながら、協賛金等の収入で自主運行を目指しました。しかし、ボランティアの確保、安全性の確保、協賛金の不足、無償による運送が他交通事業者へ与える影響などの課題解決の目途が立たなかったため、ボランティアドライバーによる無償での自主運行を断念することになりました。

（３）交通事業者による運行（平成２４年度～平成２７年度）

平成２４年度からは、道路運送法に基づく協議会となる藤沢市地域公共交通会議での議論を進め、アンケート等の結果から、採算性が見込め、交通事業者による実証運行を平成２７年２月から開始しました。実証運行は藤沢市、交通事業者、郷土づくり推進会議が連携して行っており、道路運送法第２１条による運行で、定時定路線型の運行をセダン型タクシー車両で、２系統、各１２便で行っています。



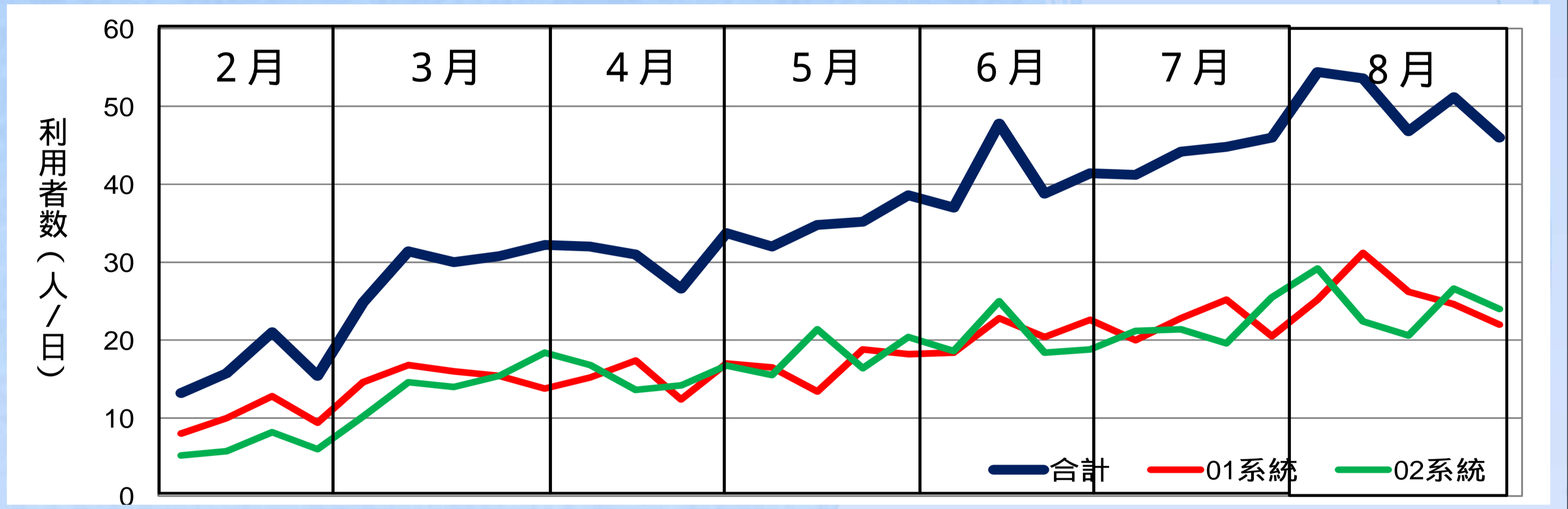
ボランティアによる自主運行



交通事業者による実証運行

現状

住民へのアンケート結果から１０９人/日で採算を確保する運行計画としましたが、平成２７年の４月時点で３０人/日で採算性を大きく下回ったことから、地域住民と市が連携して戸別訪問、利用者ヒアリングなどの活動を行った結果、８月の平均利用者数が５０人/日と増加しましたが、運賃収入のみでの黒字化の目途がたっていないため、経費の圧縮、利用者増加、運賃外収入の確保が必要と考えられています。



今後の予定

（１）地域の意見の反映（利用者を伸ばすための取組み）

ヒアリング調査・戸別訪問から、利用者を伸ばす可能性について意見があったため、次の内容を新たな計画に反映させる予定です。（平成２７年１１月より実施予定）

- ・ １０人乗りワゴン車の導入（わかりやすさ・車内の快適性確保）
- ・ 買い物目的の利用のための商業施設へのルート追加
- ・ 利用者数を反映したダイヤの改正

（２）運行経費の圧縮

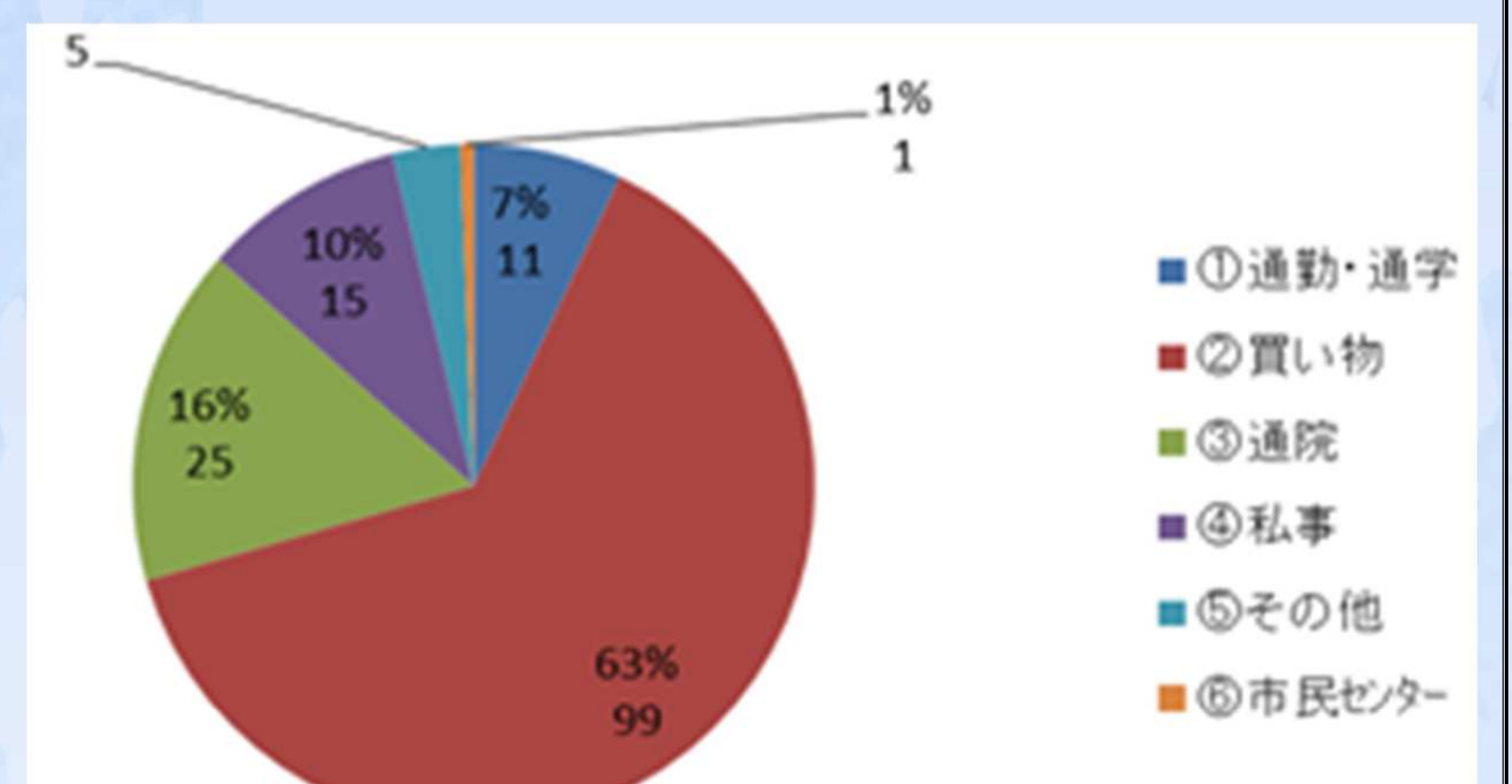
タクシー事業者と調整を行い、運行経費の圧縮の可能性について、検討を進めています。

（３）商業施設等との連携（商業施設の利用者を増やし商業施設の協賛を得るための取組み）

利用者と商業施設相互にメリットのあるサービスの提供による商業施設の協賛を目指します。

（４）各種施策を実施するための組織づくり

運行には、法人・個人からの支援が必要なため、受け皿となる組織づくりを目指します。



善行駅への移動目的（アンケート集計）



新たな車両変更イメージ

終わりに（地域の代表者のことば）

善行地区郷土づくり推進会議は「みんなが元気で、誰にも優しい、坂のまち」をまちづくりのテーマに「みんなで支えあい、安心して快適に暮らせるまち、自慢できる故郷（ふるさと）ぜんぎょう」を実現するため、「高齢者等移動支援」に取り組んできました。

その取り組みの成果として、善行東部地区において、２月から１０月まで第１段実証運行を行いました。そして、そこで得られた新たな課題と地区市民のニーズを取り込み、３ルート運行、８人乗りワゴン車により１１月から３月までの間、第２段実証運行を行います。平成２８年４月から地域の皆様（自治会・町内会・地元商店・企業・個人）と藤沢市と交通事業者（のりあい善行）が三位一体となって本格運行へ移行し、多くの人に利用していただきたいと思います。